

16. 千葉大学医学部（国立） School of Medicine, Chiba University

<http://www.chiba-u.ac.jp/>

〒260-8670 千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1

電話043-222-7171

FAX043-226-2005

e-mail : sag5032@office.chiba-u.jp

教養課程

〒263-8522 千葉県千葉市稲毛区弥生町1-33

電話043-251-1111

専門・教養課程所在地間の最寄交通機関による所要時間 約50分

1. カリキュラム全般について

A. 一般教育（教養）と専門教育との関係：

- 1) 学則上は一般教育（教養）と専門教育とを区別せず、6年一貫教育である。
- 2) 一般教育（教養）の学習は1、2年生のみで行われる。
- 3) 専門教育（準備教育は除く）の学習は1年生から開始する。

B. 教授会は一般教育（教養）にはない。

C. 学生や教員や地域住民などに対し、医学部・医科大学としての一般目標や理念が印刷物や看板・ホームページなどのメディアで示されている。

D. 学生や教員が学習内容を予め知ることができるように、授業科目の学習目標（一般目標や行動目標）、授業内容、担当者などを印刷物（シラバス）ですべて示してあり、その印刷物をシラバスという。

E. 4年生大学既卒者（学士編入生）は卒業学部にかかわらず、すべて3年生に編入する。
編入生の編入時期はすべて4月である。

F. 1年生の入学時オリエンテーションは1日間行うが合宿ではない。

G. Early Exposure（医学教育の早い時期に医学・医療の場に接し動機づけを試みる教育）を行っている学年は1、2、3年生である。

その期間と内容：1年生：2日間：IPE（interprofessional education）

その期間と内容：2年生：2日間：早期体験チュートリアル

その期間と内容：3年生：2日間：医師見習い体験学習

H. PBL/チュートリアル（小グループで行う問題解決型学習）が導入されている。コアタイムの時間は

1年生は、平均して週3時間×年間3回である。

2年生は、平均して週3時間×年間2回である。

3年生は、平均して週3時間×年間1回である。

4年生は、平均して週3時間×年間27回である。

自習用に割り当てられている時間は

1年生は、平均して週1.5時間×年間3回である。

2年生は、平均して週1.5時間×年間2回である。

3年生は、平均して週1.5時間×年間3回である。

4年生は、平均して週13.5時間×年間27回である。

チューターは主として基礎医学系と臨床医学系の教員が行う。

チューター養成のためのトレーニングプログラムや講習会などが行われている。

I. 細胞・組織レベル、ないしは臓器系統別の統合カリキュラムを多くの部分で採用している。

J. 平成17年以降、大幅なカリキュラム改訂は、平成19年に行われ、それにはモデル・コア・カリキュラムを参考にして、独自のカリキュラムを構築している。

「コア」以外のelectiveないしadvanced部分のカリキュラムの特色は下記のとおりである。

- 1) 専門職連携教育
- 2) 3年次早期体験学習（医師見習い実習）

K. 今後のカリキュラム改訂は

平成20年を目途に予定している。そのねらいは下記のとおりである。

- 1) 卒業時到達目標を設定し、学習アウトカム基盤型教育を導入する。すなわち、卒業時に学習アウトカムを達成できるように6年間のカリキュラムを全て見直し、6年一貫で再構築する。また、学習アウトカムの達成を厳格に行うために、妥当性のある評価法を導入する。
- 2) 6年間で履修するスカラーシッププログラムを導入し、科学的探求能力の修得をめざす。
- 3) 看護学部、薬学部と合同で授業を行う IPE (interprofessional education) は6年間でステップ1から4まで履修する。

L. 現在学内で、医学教育について検討されている事項は下記の点である。

- 1) IPE (interprofessional education) の6年一貫プログラム作成とその有効性についての研究
- 2) ブレンディド教育の導入
- 3) 多角的な授業評価に基づくカリキュラムの見直し

2. 選択制について

専門教科について選択制を採用してはいない

3. 一般教育（教養）について

- A. 医学部医学科以外の学部や学科のある大学に伺います。
一般教育（教養）の授業は他学部（他学科）の学生と一緒に受講する。
- B. 他大学との単位互換について認めている。
- D. 一般教育（教養）部門ではほとんどが選択科目である。
- E. 平成19年新生で、高等学校などで「生物」を履修していない学生数は11%であった。
「生物」を履修しなかった学生に対して特別に対応してはいない。
- F. 平成19年新生にはセンター試験が導入されていた。
入学者のうち「生物」を選択していた学生は約6%であった。

4. 基礎医学教室ないしは社会医学教室（研究室）配属について

- A. 学生が一時期、基礎医学教室ないしは社会医学教室（研究室）に配属されるシステムがあり、全員が3年生の時に平均して1週37.5時間×5週間配属される。

5. 臨床実習（外来実習、BSL、クリニカル・クラークシップを含む）について

- A. 臨床実習前に、まとまった形で医療面接・診察技法（例：臨床実習入門など）の学習を行っている。
(30日間)
身体診察の学習に医師や学生以外の標準模擬患者（SP）を導入している。
- B. 臨床実習の実施学年とその期間は（早朝や時間外は省略）
5年の時、1週37.5時間で、40週間である。
6年の時、1週37.5時間で、9週間である。
- C. 臨床実習科目は全科目を必修としている。
- D. 大学の附属病院以外の施設（国・公・私立病院や保健所・老健施設などでの実習、国内外を問わない）で臨床実習を行っている。
その期間は全部で6週で、そこで行う実習科目は（クリニカルクラークシップ）である。
この大学外の実習の場合の交通費は学生が自分で支払う。
- E. クリニカルクラークシップは一部の臨床実習実施科で導入している。
- F. 臨床実習のための手引書は印刷物として配布されていて、それにはスケジュール、到達目標、医行為の範囲、評価法が記載されている。
- G. 臨床実習の評価として各診療科ごとの評価基準があらかじめ学生に示されている。
臨床実習の評価結果は合否（進級）の判定（総括評価）に用いられる。
そして不合格の場合は、不合格科目のみ再度臨床実習を行う。

- H. 臨床実習中の学生の安全管理対策については
マニュアルが刊行されている。
保険制度に加入している。
ワクチン接種を行っている。

6. 学生の海外における実習について

- A. 学生の海外における実習は臨床実習のみを行う機会がある。
期間は最長 臨床実習は8週である。

7. 評価について

- A. 進級判定が行われるのは2年終了時、3年終了時、4年終了時である。
B. 成績の記録法は数段階制（優、良、可、不可、A、B、C、Dなど）を採用している。
C. 卒業判定のための試験は行われていて、それは講座ごとと総合試験の両方である。
時期は9月から11月まで、期間は11週間（長期休暇期間を除く）である。
D. 6年生の10月以降には、何も組まれていない。
また、大学による国家試験対策のための特別な講義が行われることはない。
E. 卒前教育に携わっている教員に対し、教育業績の評価が行われ、その評価を行うのは、学生である。
自己評価以外の評価結果は本人にフィードバックされる。
その評価結果は昇進などに関係しない。
F. 過去2年間に、卒前教育全体に対する第三者評価が行われた。

8. 教員について（医学部・医学科および大学院学生の教育を担当する教員）

- A. 教員数（平成19年12月現在）

		教 養*	基 礎**	臨 床***	附属研究施設	その他	合 計
常勤 (有給専任)	教 授		23	37	2		62
	准教授		17	31			48
	講 師		10	57			67
	助 教		34	132	1		167
	その他		1				1
	合 計	0	85	257	3	0	345

非常勤(客員・無給を含む)	教 授		7	48			55
	准教授		6	65			71
	講 師						0
	助 教			2			2
	その他		101	321			422
	合 計	0	114	436	0	0	550

- * 教養の常勤者は医学部所属者のみに限る。総合大学で医学部所属者がいない場合は空欄とする。
** 基礎は社会医学を含む。
*** 臨床は附属病院・分院を含む。

- B. 常勤の教員の任期制の制度を取り入れている。
任期制の制度の概要は下記のとおりである。

平成19年4月から導入（同意書を提出した教員のみ）。教授（任期10年，再任可），准教授（任期7年，再任1回まで），講師（任期7年，再任1回まで），助教（任期5年，一部3年，再任1回まで）。

- C. 教員や臨床実習時の指導医の医療事故に対する対応策については、取り決められていて、何らかの保険制度に、全員が加入している。

9. 学生数（平成19年12月現在）

学 年	総 数		うち学士編入者数	うち今年度留年者数（今年度のみ）	うち休学者数	うち外国人留学生	
	うち女子人数	うち女子人数					
1	96	39	0	0	0	1	1
2	96	35	0	2	1	0	0
3	107	28	5	2	2	1	0
4	103	33	5	1	0	0	0
5	92	26	4	0	0	0	0
6	111	41	5	2	4	2	2
合計	605	202	19	7	7	4	3

10. 平成19年4月（今年）の医学部受験状況（編入は含まず、1年生のみ）

受験者数310名、合格者数103名、倍率3倍

入学者数95名、（定員95名、うち推薦入学者数0名）

入学者の状況：現役54名、1浪35名、2浪4名、その他2名、

定員外に別試験で入学した外国人学生1名、

センター試験を導入している

センター試験で理科を何科目課しているか

2単科目

11. 平成19年（今年）の1年生以外の編入学状況

編入学者数／応募者数

3学年5／170

12. 平成18年4月（昨年）の医学部受験状況（編入は含まず、1年生のみ）

受験者数436名、合格者数98名、倍率4倍

入学者数95名、（定員95名、うち推薦入学者数0名）

入学者の状況：現役50名、1浪34名、2浪7名、その他4名、

定員外に別試験で入学した外国人学生0名、

センター試験を導入している

13. 平成18年（昨年）の1年生以外の編入学状況

A. 編入学者数／応募者数 として表示してください。

3学年5／131

B. 編入学者地域わくについて

地域わくは無い。

今後どのように考えていますか。

当面は導入予定はない。

14. 授業時間配分

(1) 学期区分

学 年	学期制なし	学期制あり		総時間数		
		2学期制	3学期制	講義	実習	PBL/ チュートリアル
1		○			103.5	9
2		○		247.5	61.5	6
3		○		607.5	244.5	3
4	○			821.25	101.25	90
5	○				1440	
6	○			45	292.5	

(アーリーエクスポージャーは実習時間数に含める。)

(2) 土曜日の授業（講義または実習）は全学年ない

(3) 時間配分の概略図（授業区分のブロック図）

新カリキュラム（総合）

1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
A		F		H	
		E			
B	D				
	C		G		
					G

(註) A：普遍教育（一般教育）

B：専門基礎

C：医学概論（IPEを含む）

D：基礎医学（生理系：解剖、生理、生化など）

E：基礎医学（病理系：病理、微生物、薬理、寄生虫など）

F：基礎医学ゼミ，基礎系・臨床系への配属

G：社会医学（衛生、公衛、法医）

H：臨床医学（卒業試験を含む）

15. 医学専門教育（専門課程）の教科別授業時間数

授業科目名	講義時間数	実習時間数	合計時間数
医学概論 I		112.5	112.5
医学概論 II	67.5	22.5	90
(専門連携英語)	22.5		22.5
(生命倫理演習)	22.5		22.5
(医用工学)	22.5		22.5
(早期体験チュートリアル)		22.5	22.5
正常構造と機能 I	180	45	225
(形態学総論)	45		45
(形態学総論実習)		22.5	22.5
(神経科学・生理学総論)	22.5		22.5
(遺伝分子医学)	22.5		22.5
(生化学)	90		90
(生化学実習)		22.5	22.5
医学概論 III		22.5	22.5
(早期臨床体験実習)		22.5	22.5
正常構造と機能 II	225	135	360
(肉眼解剖)	22.5		22.5
(肉眼解剖学実習)		67.5	67.5
(組織学)	45		45
(組織学実習)		22.5	22.5
(神経科学)	45		45
(神経科学実習)		22.5	22.5
(生理学)	90		90
(生理学実習)		22.5	22.5
(免疫学)	22.5		22.5
病態と診療 I	157.5	90	247.5
(病理学総論)	22.5		22.5
(ウイルス学)	22.5		22.5
(ウイルス学実習)		22.5	22.5
(細菌学)	22.5		22.5
(細菌学実習)		22.5	22.5
(寄生虫学)	22.5		22.5
(寄生虫学実習)		22.5	22.5
(薬理学)	67.5		67.5
(薬理学実習)		22.5	22.5
生命科学徳論・研究	225		225
(自主研究)	180		180
(基礎医学ゼミ)	45		45
医療と社会	123.75	33.75	157.5
(衛生学)	45		45
(公衆衛生学)	22.5		22.5
(法医学)	33.75		33.75
(法医学実習)		11.25	11.25
(衛生学・公衆衛生学実習)		22.5	22.5
(医療経済情報学)	22.5		22.5
病態と診療 II	787.5	90	877.5
(臨床病態治療学)	697.5		697.5
(臨床医学総論)		45	45
(臨床病態学演習)	90		90
(病理学実習)		45	45

授業科目名	講義時間数	実習時間数	合計時間数
臨床医学実習Ⅰ (学内診療科臨床実習)		1440 1440	1440 1440
臨床実習Ⅱ (学外病院実習)		270 270	270 270
病態と診療Ⅲ (総合講義・演習)	45 45		45 45
合 計	1811.25	2261.25	4072.5

各学年における講義時間数、実習時間数について

	講義時間数	実習時間数	合計時間数
1 学年	0	112.5	112.5
2 学年	247.5	67.5	315
3 学年	607.5	247.5	855
4 学年	911.25	101.25	1012.5
5 学年	0	1440	1440
6 学年	45	292.5	337.5
合 計	1811.25	2261.25	4072.5

16. その他の教育内容

独立した科目として授業が行われている科目：

人類遺伝学（臨床遺伝学）（必修）、医用（電子）工学（必修）、医学外国語（必修）、医の倫理（必修）、医療経済（必修）、医療情報学（必修）、臨床医学（必修）

独立した科目として授業が行われていない科目：

医史学、行動科学、医療福祉学（医療社会福祉学）、医療安全、緩和ケア、高齢医学、在宅ケア・介護、プライマリ・ケア、家庭医学、人間関係学、医療保険

18. MD-PhDコースを設置している。

（在籍者は、19名。）